

2021年度 大学入学共通テスト 国語(現代文) 分析

試験時間 80分(国語全体で)

難易度	出題分量	出題傾向
昨年度センター試験より やや難化	評論文:昨年度並み 小説:本文やや短めで資料の 文を含めると昨年度並み	複数のテキストを使用しての 出題で各設問前半はセンタ ーを踏襲。評論で生徒の「学 習過程」に即した空欄補充の 新傾向あり
<p>総評 大幅な変更も予想されたが、試行調査で見られた実用文等の資料は出題されず、旧センター試験を踏襲した出題となった。各大問の後半にある問い方が新傾向であり、この問いに関して戸惑った生徒も存在したであろう。文章自体は読みやすい内容ではあった。</p>		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	設問別分析
第1問	評論文	50点	2017年の北大の二次試験にも出題されている香川雅信「江戸の妖怪革命」からの出典。 日本の妖怪に関する認識がどのように変容したかを論じた文章で、各段落での話題・論点などが明確で評論文の読解練習を積んだ受験生にとってはさほど抵抗なかったであろう。
第2問	小説	50点	1918年に発表された加能作次郎「羽織と時計」とその作品に対する批評を合わせた出題。 設問数も昨年同数であり、設問も旧センターを踏襲した形であったが、問6の本文に対する批判的な批評文を資料として提示する新傾向の設問があった。素直に読めば対応できたが、戸惑った生徒もいたであろう。

高2生へのワンポイントアドバイス

評論文:日頃から文章を読み、正確な理解を養うことや筆者の主張を理解する訓練をしておくことが重要です。合わせて語彙力の強化を意識し、単語の精査力を養いましょう。
小説:日頃から小説を読み、登場人物の心情変化とその原因を丁寧に追っていく習慣をつけましょう。本文中の因果関係を捉える力を養うとともに客観的に読む訓練をしましょう。